

局 施 策 評 価 票

平成 **21** 年度実施施策

A時点: -	B時点: -	C時点: 22. 7月

局名	企画文化局
-----------	-------

基本計画	柱	暮らしを彩る	担当局 / 総務担当課名	企画文化局	企画課
	大項目	生活に根づき_誇れる文化・スポーツの振興			
	取組みの方針	スポーツの振興			
	連絡先	582 - 2153			

21年度計画

-2-(3)-

施策名	スポーツを通したにぎわいづくり
------------	-----------------

施策の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	市のシンボルチームとしての「ギラヴァンツ北九州」などの育成、全国・国際規模の大会の誘致・開催などにより、市内外から多くの人を呼び込みます。
	その結果、実現を目指す取組みの方針名	スポーツの振興

成果指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)	現状値		計画	平成21年度	目標値	
	年度	平成21年度			年度	平成25年度
国際・全国規模の大会の開催数	年度	平成21年度	実績	19 回	年度	平成25年度
市内において、国際・全国規模の大会を開催し、多くの市民に観戦してもらうことでまちににぎわいをもたらすことができるため指標としました。	現状値	19回	達成度	%	目標値	21回
ギラヴァンツ北九州主催試合の入場者数	年度	平成21年度	計画	51,000 人	年度	平成25年度
スポーツを通したにぎわいづくりのためには、ギラヴァンツ北九州が市民が一体となって本市に誇りや愛着を持てるようなシンボルとなり、真に市民に愛されるチームとなる必要があるため指標としました。	現状値	57,947人	実績	57,947 人	目標値	90,000人
			達成度	114.0 %		
主な市民参加型スポーツイベントの参加者数	年度	平成21年度	計画	63,000 人	年度	平成25年度
市民参加型のスポーツイベント(市民体育祭・レトロマラソン・レディーススポーツフェスティバル)を開催し、多くの市民に参加してもらうことで、まちににぎわいをもたらすことができるため指標としました。	現状値	62,746人	実績	62,746 人	目標値	70,000人
			達成度	100.0 %		
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]	事業費		52,150 千円	構成事業にかかった人件費の目安(21年度)	
		うち一般財源		52,150 千円	6,600 千円	

局施策に対する担当局の評価

局施策の評価	21年度評価	主な分析理由
成果指標の結果を踏まえ、構成事業の評価結果なども考慮し評価を行う。	B	市民チームの育成・支援事業においては、ギラヴァンツ北九州のホームゲームでの入場者数が目標を上回りました。国際大会・全国大会等スポーツ開催事業では、多くの全国大会を、ほぼ予定通り開催することができたが、国際大会は開催できませんでした。
今後の局施策の方向性	施策を構成する各事業は、実施課において一定以上の成果を挙げていると評価をしており、施策の実現に有効であると考えられる。今後は、大会の開催そのものに加え、にぎわいづくりや市民の一体感などのアピール方法等をより効果的に実施できるよう検討することが必要です。	

【局施策評価】 A:大変良い状況にある B:概ね良い状況にある C:概ね良い状況とまでは言えない D:不十分な状況にある

評価担当部署の意見

適切な評価 下記のとおり

目標値の考え方を示すことが必要と考えます。

施策名 **スポーツを通じたにぎわいづくり**

構成事業名	事業費			事業にかかった 人件費の目安 (21年度)	経費分類 裁量的経費 義務的経費 特別経費(重点) 特別経費(臨時)	今後の方向性			
	C時点[21年度:執行額]					21年度			21年度
国際大会・全国大会等スポーツ開催			2,150 千円	2,850 千円	裁量的経費			ア	
事業費のうち一般財源			2,150 千円						
市民チームの育成・支援			50,000 千円	3,750 千円	特別経費(重点)			ウ	
事業費のうち一般財源			50,000 千円						
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円						
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円						
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円						
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円						
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円						
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円						
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円						

局施策全体のコスト	21年度		
	事業費	人件費(目安)	
施策全体の事業費のうち一般財源	52,150 千円	6,600 千円	

局施策の
21年度評価

B

【局施策評価】
A: 大変良い状況にある
B: 概ね良い状況にある
C: 概ね良い状況とまでは言えない
D: 不十分な状況にある

【事業の今後の方向性】 ア: 事業の見直しを図ることが可能 イ: 休止・廃止を検討 ウ: 現状のまま進めることが適当 エ: 終了

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	企画文化局	スポーツ振興課
連絡先	582-2395	

基本計画	柱	暮らしを彩る
	大項目	生活に根つき誇れる文化・スポーツの振興
	取組みの方針	スポーツの振興
	主要施策	スポーツを通したにぎわいづくり

関連計画	北九州市スポーツ振興計画
事業期間	平成8年度～未定
経費区分	裁量的経費

-2-(3)-

事業名	国際大会・全国大会等スポーツ開催		
事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	実践するスポーツだけでなく、見るスポーツも多くの市民が望んでいます。競技レベルの高い大会等を市民が見ることにより、スポーツに対する興味・関心を高め、スポーツに取り組むきっかけにもなるほか、個々の競技力向上にもつながります。また、大会を開催することは、まちの知名度向上や集客効果を生み、まちのにぎわいづくりにも寄与します。	
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	スポーツを通したにぎわいづくり
		成果	国際・全国規模の大会の開催数

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由	
		当初計画	国際・全国大会の開催数 19回	国際・全国大会の開催数 19回	国際・全国大会の開催数 19回	国際・全国大会の開催数 20回		国際・全国大会の開催数 20回
	現状	国際・全国大会の開催数 19回	国際・全国大会の開催数 19回	国際・全国大会の開催数 19回	国際・全国大会の開催数 20回	国際・全国大会の開催数 20回		
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)					平成21年度	目標	
	国際大会・全国大会等の開催数					計画	19回	年度
	市内において、国際・全国規模の大会を開催し、多くの市民に観戦してもらうようにします。					実績	19回	内容
						達成度	100.0%	20回
					計画		年度	
					実績		内容	
					達成度	%		
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]					事業費	2,150千円	事業にかかった人件費の目安(21年度) 2,850千円
						うち一般財源	2,150千円	
単年度計画								

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	国際大会は少なかったのですが、全国大会については、多くの大会を開催することができました。開催数はほぼ予定通りで、条件が整えば開催数を増やしていくことも考えられます。今後も、各競技団体や西日本産業コンベンション協会と連携し、全国規模大会開催が可能な本市のスポーツ施設での実施を前提に、誘致する競技や大会を検討していきたいと思えます。
------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	4	選手だけでなく、役員関係者も含めて多くの方々を市を訪れ、まちのにぎわい創出につながったと思われます。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		3	適切な予算で十分な効果は得られていると思われます。開催補助については見直しを行っています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		3	スポーツによるまちのにぎわいづくりや、市民の一体感、市のイメージアップにつながるもので、元気なまち、スポーツのまち北九州市を全国にアピールしていくひとつの方法だと考えます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすることはできないのか。		4	市のスポーツ施設を利用することや、開催に係る補助等を考えても、市の関わりは必要不可欠です。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ア	国際・全国大会が開催されることは、とても有意義だと思えますが、施設面や競技団体との折衝、費用などで制限されるところがあります。今後は現在数を維持しつつ、可能な範囲で国際・全国大会開催を検討してまいります。

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	企画文化局	スポーツ振興課
連絡先	582-2395	

基本計画	柱	暮らしを彩る
	大項目	生活に根つき、誇れる文化・スポーツの振興
	取組みの方針	スポーツの振興
	主要施策	スポーツを通じたにぎわいづくり

関連計画	北九州市スポーツ振興計画
事業期間	平成18年度～未定
経費区分	特別経費(重点)

-2-(3)-

事業名	市民チームの育成・支援
-----	-------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	「元気発進！北九州」プランでは、市民が一体となるシンボル事業の推進を掲げています。今年からJリーグ2部に参入した、本市初のプロスポーツチームである「ギラヴァンツ北九州」が市民が一体となって本市に誇りや愛着を持てるようなシンボルとなり、真に市民に愛されるチームとなるよう支援を行い、スポーツを通じたにぎわいづくりを演出します。				
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	スポーツを通じたにぎわいづくり		成果	ギラヴァンツ北九州主催試合の入場者数

目的実現の為に実施する内容	実施工程						計画変更理由	
		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度		
	当初計画	平均入場者数 3,000	平均入場者数 5,000	平均入場者数 5,500	平均入場者数 6,000	平均入場者数 6,500	▶	
	現状	平均入場者数 3,408	平均入場者数 5,000	平均入場者数 5,500	平均入場者数 6,000	平均入場者数 6,500	▶	
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)						平成21年度	目標
	ギラヴァンツ北九州主催試合の平均入場者数				計画	3,000 人	年度	平成25年度
	ギラヴァンツ北九州のホームゲームでの入場者数を増やすためには、市民への広報・PRや集客対策が何より重要になります。本事業では、同チームの広報やホームゲームでの集客にかかる経費等を一部負担し、観客者の増加に努めます。				実績	3,408 人	内容	6,500人以上
					達成度	113.6 %		
					計画		年度	
					実績		内容	
				達成度	%			
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月(21年度・執行額)				事業費	50,000 千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)	
					うち一般財源	50,000 千円	3,750 千円	
単年度計画	(この欄は、単年度計画の進捗状況を確認するための欄です。)							

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	市民への広報・PRや集客対策に注力した結果、当初計画を上回る入場者数を確保でき、結果としてJリーグ昇格条件の一つであったホームゲームでの平均観客数3,000人以上という条件をクリアすることができました。具体的には、ホームゲームでの運営経費(チラシ作成費、広報費用)等に補助金を充当しました。
------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	市民チームであるギラヴァンツ北九州は、特定の親会社を持たず限られた経費で会社運営をしています。そのような状況下で、当該事業は同チームの入場者増に向けた経費の一部を補助する内容となっており、有効性は高いと考えます。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	補助金という事業の性質上、経済性、効率性は求めにくいですが、当該補助金ができる限りホームゲームでの入場者増加に結びつくような用途となるようチームと協議しております。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	経営基盤が安定するまで継続的な支援を行わなければ、市民チームであるギラヴァンツ北九州の会社経営に影響を与え、今までの取組みが無駄になってしまうので適時性は高いと考えます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすることはできないのか。	3	最終的に市の関与がなくなることが望ましいが、自主経営ができるようになるまでの当面の間、本市初のプロスポーツチームを支えていくことが必要であると考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	本事業は施策に対する有効性も高く、「スポーツを通じたにぎわいづくり」を推進していくうえで重要な事業であると考えています。今後も目標の達成に向けて着実な取組みを進めていくことが適当だと考えます。